

2020年(新元号2年)度版

光村の「国語」完全活用ガイド

語彙力を高める 「言葉の宝箱」



言葉が広がる、学びが深まる

「言葉の宝箱」

「言葉の宝箱」は、感想や評価語彙を集めた「考えや気持ちを伝える言葉」と、国語で学習する用語をまとめた「学習に用いる言葉」で構成しています。二年生以上の教科書の巻末にあります。



「言葉の宝箱」で、活用的な語彙力を



早稲田大学教授
森山 卓郎

語彙力には量と質という側面があります。学習でも生活でも、まずある程度の数の語を知っておく必要があります。そのためには量的な多くの語との出会いが必要です。さらに、語を適切に使いこなす力、すなわち質的な語彙力も必要です。語を選んだり、言葉について考えたり、思考や読解などに生かしていく豊かな経験が必要なのです。

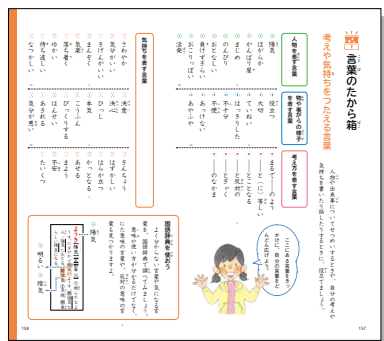
「言葉の宝箱」には、発達段階に応じた「考えや気持ちを表す言葉」が数多く提示されています。これは言葉との出会いの場でもあります。似た意味の言葉が載っているのです、使い分けなどを考えるヒントにもなります。考えを深めるための手掛かりにもなります。国語辞典で言葉調べをする出発点にもなるでしょう。ここから量的な語彙力と質的な語彙力を高めていくことができます。

もう一つの「学習に用いる言葉」は、「段落」「人物像」などの学習用語を整理するものです。学習用語は、思考を深める大切な道具でもあります。時に焦点化や整理が必要です。これも学習のさまざまな段階で活用できます。

国語科で大切なことは、「教材を学習すること」ではなく、「教材で学習すること。」「話すこと、書くこと、読むこと」そして思考力などにつながる力を身につけるためには、量的・質的に語彙力を高め、生かしていく「活用的な語彙力」が必要です。

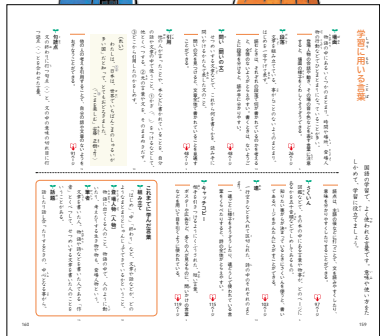
「言葉の宝箱」は、いつでも開けられる「宝箱」！ぜひ縦横無尽に活用し、豊かな活用的語彙力を培っていただきたいと思います。

もりやま・たろう「一九六〇年生まれ。日本語学者。光村図書国語」編集委員。著書に、「写真で読み解く類義語辞典」(監修、あかね書房)、「国語教育の新常識」(共著・明治図書)など多数。



「考えや気持ちを伝える言葉」

詳しくは➡4ページ



「学習に用いる言葉」

詳しくは➡12ページ

考えや気持ちを伝える言葉

「すごい」ですませないで、自分の表したいことにぴったり言葉を探させたいな。



言葉のたから箱

考えや気持ちをつたえる言葉

人物や出来事についてせつめいするときや、自分の考えや気持ちを書いたり話したりするときに、役立てましょう。

人物を表す言葉

陽気
ほがらか
がんばり屋
まじめ
のんびり
おとなしい
負けずらい
おこりっぽい
活発

物や事がらの様子を表す言葉

役立つ
大切
ていねい
はつきりした
不十分
不便
あつけない
あやふや

考え方を表す言葉

まるで—のよう
—と(に)等しい
—とことなる
—と反対の
—とぎやく
—のなかま



ここにある言葉をきっかけに、自分の言葉をどんどん広げよう。

国語辞典を使う

よく分からない言葉や気になる言葉を、国語辞典で調べてみましょう。意味や使い方が分かるだけでなく、にた意味の言葉や、反対の意味の言葉も見つかりますよ。

陽気

ようき【陽気】名「形動」①明らかなく、うす。にぎやかで明るい。例 陽気な人／陽気におどる。②気候。例 春らしい陽気になる。

明るい 陰気

気持ちを表す言葉

さわやか
気分がいい
きげんがいい
まんぞく
気楽
落ち着く
ゆかい
待ち遠しい
なつかしい
決意
決心
ひつし
本気
こうふん
びつくりする
はんせい
あきれ
気分が悪い
きんちよう
はずかしい
はらが立つ
かつとなる
あせる
まよう
不安
たいくつ

評価語彙や感想語彙を四つのカテゴリーで提示

書くことの指導の際に、「考え方を表す言葉」を示せば、文章を展開させるヒントになりそう。



活用方法の提案

各巻の学習と連動しているから、日常的な学習活動の参考にもなるな。



「考えや気持ちを伝える言葉」の「こ」に注目

感想を交流する
場面では、いつも
使うようにしましょう。



発達段階を考慮して、
掲載語句を選定

新しい学習指導要領では、「知識及び技能」に、語彙を豊かにすることに関する事項が設けられました。左のように各学年において指導の重点とする語句の目安が示されています。

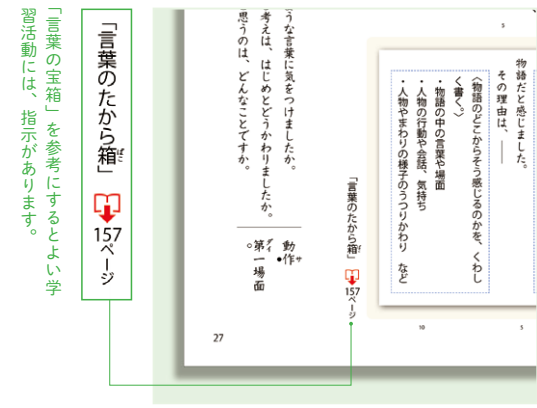
ただ、言葉は一朝一夕に身につくものではありません。光村の教科書では、学習指導要領をもとに四つのカテゴリーを設け、二年から六年全てで共通化させました。児童の発達段階や、当該学年の教材との関連などを考慮しながら、多くの言葉に出会い、自分の話や文章の中で使っていけるように言葉を選定しています。



授業で活用しやすく

語彙を豊かにするためには、「話や文章の中で使う」と通して、自分の語彙として身に付けていくことが重要である」(小学校学習指導要領解説 国語編)とあります。学習の中で、「言葉の宝箱」を積極的に活用してもらえように、教材の中で示唆したり、造本上の工夫をしたりしています。

- 第1学年及び第2学年
 - ・身近なことを表す語句
- 第3学年及び第4学年
 - ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句
- 第5学年及び第6学年
 - ・思考に関わる語句



「言葉の宝箱」を参考にするとよい学習活動には、指示があります。



「気持ち(心情)を表す言葉」は、折り込みを広げると、教材と同時に閲覧可能です。

「考えや気持ちを伝える言葉」一覧

二年生(93語)

人物を表す言葉

- 明るい
- ゆうきのある
- 前むき
- 元気
- たくましい
- いじわる
- そっかしい
- どりよく家
- ちえのある
- 気が弱い
- 親切
- やさしい
- 思いやりのある
- しっかりもの
- しょうじき
- がまん強い
- こわがり
- いじっぱり
- おだやか
- ひょうきん

事物を表す言葉

- きれい
- めずらしい
- くわしい
- こまかい
- 人気のある
- 目立つ
- きゅうくつ
- すばやい
- のろのろ
- ひっそり
- りっぱ
- べんり
- かんたん
- むずかしい
- 新しい
- 古い
- あぶない
- ふさわしい
- みごと
- よく分かる

考え方を表す言葉

- みたい
- のよう
- にいた
- と同じ
- とちがう
- にそっくり
- くらいの
- 同じところは—
- ちがうところは—
- わたしだったら—
- ぼくだったら—

心情を表す言葉

- おもしろい
- 楽しい
- わくわくする
- うれしい
- よろこぶ
- ほっとする
- 気持ちがいい
- さっぱりする
- 気に入る
- へいき
- おどろく
- ドキドキする
- 気持ちがわるい
- しんばいする
- こわい
- さびしい
- かなしい
- つまらない
- くるしい
- おろおろする

わから、活用のヒント
も示したぞ。参考にしてほしいのじゃ。



低学年の児童には、それぞれの言葉を、動作や表情、絵で表現して示すのも効果的です。言葉の意味を実感でき、類義語の微妙な差を考える機会にもなります。

三年生(99語)

人物を表す言葉

陽気
 ほがらか
 がんばり屋
 まじめ
 のんびり
 おとなしい
 負けずらい
 おこりっぽい
 活発
 すなお
 リこう
 いさましい
 いばる
 おくびよう
 心やさしい
 感じがよい
 一生けんめい
 注意深い
 うっかり

事物を表す言葉

役立つ
 大切
 ていねい
 はっきりした
 不十分
 不便
 あっけない
 あやふや
 十分
 分かりやすい
 美しい
 分かりにくい
 完全
 ーを上回る
 こうひよう
 どっしりした
 重苦しい
 とくべつ

考え方を表す言葉

まるでーのよう
 ーと(に)等しい
 ーとことなる
 ーと反対の
 ーとぎやく
 ーのなかも
 理由はー
 いっぽうーは
 大きく分けると
 ーに当てはまる
 たとえばー
 このようにー

心情を表す言葉

さわやか
 気分がいい
 きげんがいい
 まんぞく
 気楽
 落ち着く
 ゆかい
 待ち遠しい
 なつかしい
 決心
 決意
 ひつし
 本気
 こうふん
 びっくりする
 あきれる
 気分が悪い
 きんちょう
 はずかしい
 はらが立つ
 かつとなる
 あせる
 まよう

不安
 たいくつ
 元気づけられる
 ありがたい
 かんしゃ
 かんげき
 じまん
 じしん
 てるる
 てれくさい
 意外
 頭にくる
 落ち着かない
 心細い

つらい
 はつとする
 なごむ
 目をうたがう
 うちようてん
 もの足りない
 とくいになる
 反省する
 ぎよつとする
 気落ちする
 くだびれる
 やるせない
 切ない



国語辞典や漢字辞典を使い慣れるためにも、「言葉の宝箱」は活用できます。掲載している言葉を辞典で調べ、関連する語句や熟語をクラスで集めるのもよいですね。

四年生(114語)

人物を表す言葉

ゆうかん
 熱心
 たのもし
 あっさり
 さっぱり
 つんとした
 気弱
 短気
 いいかげん
 おさない
 のんき
 温和
 気のいい
 行動力のある
 根気強い
 器用
 用心深い
 強がり
 生意気
 ずうずうしい

事物を表す言葉

すばらしい
 みりよくがある
 言うことなし
 二つとない
 特色のある
 望ましい
 予想どおり
 身近
 親しみのある
 たしか
 ゆたか
 くらべものにならない
 大げさ
 かすか
 わずか
 かるやか
 かんべき
 さすが
 せいけつ
 きようみ深い
 ゆとりのある
 重大



児童の文章に、「すごかった」「よかった」など、同じ言葉が何度も出てくるときは、「言葉の宝箱」を使う絶好のチャンス。知らない言葉を思いつくことは不可能ですが、選択肢があれば、意味を調べて、自分の気持ちに近い言葉を考えることができます。

考え方を表す言葉

どちらがーかという
 ーは、ーをふくむ
 ーの点ではー
 ーに対してはー
 もしーなら
 まとめると
 つまりー
 例えばー
 たとえーだとしても
 ーによると
 ーかもしれない
 ーのはずだ
 ーにちがいない

心情を表す言葉

むちゅう
 打ちこむ
 期待
 引きつけられる
 心温まる
 感動
 関心をもつ
 うかれる
 気はすかしい
 注意
 がっかり
 苦手
 にくい
 なやむ
 しぶしぶ
 いい気がしない
 おそれる
 じれったい
 心が動く
 むねがいつぱいになる
 あっけにとられる
 かたの力をぬく
 気を引きしめる

頭をかかえる
 うっとり
 ぐっとくる
 好む
 親しむ
 こいしい
 いたわる
 ほこらしい
 しんけん
 はり切る
 注目
 思いこむ
 こだわる
 こりる
 苦心
 しんぼう
 こらえる
 ふきげん
 心が晴れる
 心がはずむ
 冷やあせをかく
 はらを決める
 気が遠くなる
 気がすむ
 気が重い
 熱が冷める

人物を表す言葉

- すごい
- まさる
- 一、二を争う
- 力量がある
- 才能がある
- いさぎよい
- すがすがしい
- 品がいい
- ひかえめ
- 評価が高い
- 堂々とした
- おおらか
- おっとり
- 冷静
- せっかち
- 心配しよう
- がんこ
- 向こう見ず
- しんちょう

事物を表す言葉

- あざやか
- はなやか
- みずみずしい
- 名作
- 名高い
- 評判がいい
- すぐれた
- 重要
- 意義深い
- しっくり
- 順調
- 正確
- 明らか
- とてつもない
- 型破り
- 不自然
- 重々しい
- すさまじい
- 余計

考え方を表す言葉

- 一の点から分類する
- と
- 一の点で比べると
- といえる
- と思われる
- 一とはどういうことか
- 原因として考えられるのは、

心情を表す言葉

- ◆ ほほえましい
- ◆ ほれぼれする
- ◆ 会心
- ◆ ときめく
- ◆ 共感
- ◆ 熱を上げる
- ◆ こみ上げる
- ◆ おねにひびく
- ◆ おねがすく
- ◆ 快い
- ◆ 軽快
- ◆ 声はずむ

教室で、感想を述べるときに使える言葉などを掲示することがあります。そのときは、ぜひ追加できるスペースを設けておきましょう。

児童から挙がった言葉を書き加えたり、関連する言葉どうしを線でつないだりして、クラスの「言葉の宝箱」を作ると、児童たちは、やりがいを感じるでしょう。

- ◆ おねが高なる
- ◆ 引かれる
- ◆ 顔を赤らめる
- ◆ 張りつめる
- ◆ 思い出深い
- ◆ きおくに残る
- ◆ 印象深い
- ◆ 気に留める
- ◆ 安らぐ
- ◆ 気を静める
- ◆ 気が軽くなる
- ◆ 満ち足りる
- ◆ 心強い
- ◆ 息をのむ
- ◆ うろたえる
- ◆ あたふたする
- ◆ まごつく
- ◆ いら立つ
- ◆ しんみり
- ◆ 気が進まない
- ◆ もの悲しい
- ◆ あわれ
- ◆ 気の毒
- ◆ 息苦しい
- ◆ おねがいたむ
- ◆ いたいたい
- ◆ めんどく
- ◆ うんざり
- ◆ とまどう
- ◆ 不気味
- ◆ いまましい
- ◆ しらける



人物を表す言葉

- 楽観的
- 悲観的
- 積極的
- 消極的
- 論理的
- 感情的
- 熱意のある
- 率直
- まっすぐ
- もの静か
- 誠実
- 温かい
- するどい
- 気難しい
- えんりよがち
- 未熟
- 一に明るい
- 一に強い

事物を表す言葉

- 適切
- 好ましい
- うってつけ
- 一にかなう
- 不都合
- 不つり合い
- 明確
- 確実
- 的確
- あいまい
- 不確か
- 不向き
- 不規則
- 同一
- 共通
- 抽象的
- 具体的
- 現実的
- 理想的
- おそらく

考え方を表す言葉

- 一とみられる
- 具体的には、
- 共通点は、
- 中でも、
- 多くは、
- 一の場合は
- ここから、一と言える

心情を表す言葉

- ◆ したう
- ◆ あこがれる
- ◆ 好感をもつ
- ◆ いとしい
- ◆ かんめいを受ける
- ◆ 心にひびく
- ◆ 圧倒される
- ◆ 我を忘れる
- ◆ 痛快
- ◆ こころよい
- ◆ 晴れやか
- ◆ 胸をふくら
- ◆ ませる
- ◆ 待ち望む
- ◆ 意気込む
- ◆ くつろぐ
- ◆ 気が楽になる
- ◆ 解放感
- ◆ かたの荷が下りる
- ◆ くすぐったい
- ◆ そわそわする
- ◆ 心もとない
- ◆ 気がかり

- ◆ 気が気でない
- ◆ もどかしい
- ◆ ふさぐ
- ◆ たまらない
- ◆ なやましい
- ◆ わずらわしい
- ◆ 嫌気が差す
- ◆ おつとする
- ◆ 鼻につく
- ◆ ぐらつく
- ◆ ためらう
- ◆ なごりおしい
- ◆ 心残り
- ◆ 後悔
- ◆ 味気ない
- ◆ いじける
- ◆ くじける
- ◆ 失望



話し言葉と書き言葉では、使う言葉に違いがあり、同じ話し言葉でも、友達のおしゃべりのときとクラス全体への報告のときでは、やはり使う言葉が異なります。高学年では、言葉が与える印象も考慮しながら、相手や場面にあった言葉を選ぶことが大切になります。

学習に用いる言葉

学習に用いる言葉

場面
物語の中の、ひとまとまり。
159ページ

初出箇所では、欄外に取り出して示しています。

国語の学習で、よく使われる言葉です。意味や使い方をたしかめて、学習に役立てましょう。

意味や使い方を子どもたちと共有しておくことで、学習が深まりそう。

場面

物語の中にあるいくつかのまとまり。時間や場所、登場人物の行動などひとまとまりになっていることが多い。

登場人物の会話や動き、その場の音や色などを表す言葉に注意すると、場面の様子をくわしくそうぞうできる。

26ページ

段落

文章を組み立てている、事がらことのないようのまとまり。はじめを一字下げて表す。

読むときは、それぞれの段落で何が書かれているのかを考えると、全体のないようがとらえやすい。書くときは、ないようごとに段落を分けると、読み手に分かりやすい。

48ページ

問い(問いの文)

せつめいする文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いかけるかたちで表した文のこと。

問いの文を見つけると、文章全体で書かれていることを見通すことができる。

48ページ

引用

他の人が言ったことや、本などに書かれていることを、自分の話や文章の中で使うこと。①かぎ(「」)をつけるなどして、他とくべつする。②元の言葉や文を、そのままぬきだす。③どこから引用したのかをしめす。

〈れい〉

わたしは、①日本は、世界でいちばんこまのしゅるいが多い国だ②と知って、とてもおどろきました。
(「こまを楽しむ」安藤 正樹より)

他の人の考えを引用することで、自分の話や文章のないようをおぎなうことができる。

91ページ

句読点

文の終わりに打つ句点(・)と、文の中の意味の切れ目に打つ読点(、)とを合わせた言葉。

1 用語

2 用語の解説

3 教科書での例

4 留意点・活用方法

5 教科書初出のページ

どう活用できるのか子どもにも分かるから、学習で使えるようになりそうだな。



これまでに学んだ言葉

組み立て

「はじめ」「中」「終わり」など、文章や話などが、どのようなまとまりとじゅんじよでできているかということ。

登場人物(人物)

物語に出てくる人のこと。物語の中で、人のように動いたり、考えたりする生き物や物も、登場人物という。

筆者

文章を書いた人。物語や詩などを書いた人である「作者」とくべつして、せつめいする文章を書いた人のことをいうことがある。

話題

話したり話し合ったりするときの、中心となる事。

前の巻までに学習した言葉

解説も載っているから、単元の初めに、既習事項を確認できるね。



さくいん

図鑑などで、その本の中にある言葉や物事が、どのページにあるかを五十音順などしてしめしてあるもの。

知りたい事がらが決まっているときにさくいんを使うと、書いてあるページをかんたんにさがすことができる。

103ページ

連

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとまり。

一連ごとに様子をそうぞうしたり、連どうして使われている言葉を探ったりすると、詩の全体がとらえやすい。

115ページ

キャッチコピー

相手を引きつけるようにくふうされた、短い言葉。ポスターや広告など、多くの人が見るものに、問いかけの言葉などを用いて目を引くように使われている。

119ページ



「学習に用いる言葉」一覧（全学年・五十音順）

【あ】

🌿 あらすじ 2年

登場人物がしたことや、出来事を中心に、物語を短くまとめたもの。人物がしたことや、物語の順に短くまとめてつなげると、あらすじになる。

🌿 アンケート調査 4年

多くの人に同じ質問をして調べる方法。答えを書き込んでもらったり、用意した答えの中から選んでもらったりする。

🌿 引用 3年

他の人が言ったことや、本などに書かれていることを、自分の話や文章の中で使うこと。①かぎ（ ）をつけるなどして、他と区別する。②元の言葉や文を、そのまま抜き出す。③どこから引用したのかを示す。

🌿 奥付 3年

その本の書名や作者・筆者名、発行年、発行者などを記したページ、またはその部分。ふつう、本などの終わりのほうにある。

【か】

🌿 会話文・地の文 3年

かぎ（ ）で示している登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文と

いう。物語では、主に地の文によって話が進む。

🌿 箇条書き 4年

事柄を、短く、一つ一つ分けて書き並べる書き方のこと。「・」「①②……」など、記号や数字を用いることが多い。

🌿 語り手 3年

物語の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら、話を進めていく。

🌿 議題 4年

話し合いや会議などで取り上げる題材のこと。生活の中の問題点や、参加者の関心のあることなど、話し合うことによって何かを決めたり、互いの考えを交流したりしたい事柄を選ぶとよい。

🌿 キャッチコピー 3年

相手を引きつけるように工夫された、短い言葉。

🌿 句読点 3年

文の終わりに打つ句点（。）と、文の中の意味の切れ目に打つ読点（、）とを合わせた言葉。

🌿 組み立て 2年

文章や話が、どのようなまとまりと順序でできているかということ。組み立ては、「初め」「中」「終わり」のまとまりで考えると、分かりやすくなることが多い。

🌿 構成 5年

話や文章の全体が、どのようなまとまりで組み立てられているかということ。

🌿 根拠 5年

考えや主張のもとになるもので、客観的な事実や、体験などの具体的な事例によって示されることが多い。

【さ】

🌿 索引 3年

図鑑などで、その本の中にある言葉や物事が、どのページにあるかを五十音順などで示してあるもの。

🌿 作者 1年

物語や詩などを作った人。

🌿 司会 3年

話し合いなどを、目的や話題に合わせて進行すること。また、それを行う人。

🌿 質問 2年

分からないことや知りたいこと、確かめ

たいことなどを、人にきくこと。質問をするときは、相手の話をよく聞いて、関係のあることを尋ねるようにする。

🌿 視点 6年

物語や詩において、語り手がどこからその作品を見て語っているかということ。その作品の登場人物に寄り添った視点から語ることもあれば、登場人物自身の視点から語る場合や、どの人物にも偏らない視点から語る場合もある。

🌿 取材 4年

知りたいことなどについて、さまざまな方法で調べて材料を集めること。実際に見たり聞いたりする、本やインターネットで調べる、アンケート調査をするなどの方法がある。

🌿 主張 5年

自分の意見や思いを他の人に訴えること。また、その意見や思いのこと。話し合いや意見などでは、自分の主張や立場を明確に示す必要がある。

🌿 出典 4年

話や文章の中で、引用したり参考にしたりした本や資料などのこと。本の場合は、著者（作者）名、書名、出版社名、発行年を示す。ウェブサイトの場合は、ウェブサ

イト名と、サイト管理者の名前などの情報を示す。

🌿 情景 4年

物語や詩において、登場人物の気持ちと響き合うように描かれた風景や場面の様子。その登場人物の目に映った景色や、耳に聞こえた音などとして、修飾語とともに描かれることが多い。

🌿 事例 5年

ある物事や考えを説明するために例として挙げられる、具体的な事実のこと。

🌿 心情 5年

登場人物が、心の中で思っていることや感情のこと。直接書かれているだけでなく、行動や会話、情景にも表れる。

🌿 人物像 5年

物語全体を通して描かれる、人物の性格や、ものの見方・考え方などの特徴を総合的に捉えたもの。

🌿 推敲 6年

一度書いた文章をよりよくするために、読み直して、誤字などを修正したり、形式や表現を適切な形に整えたりすること。

🌿 設定 4年

時（いつの話か）、場所（どこの話か）、登場人物（誰が出てくる話か）など、その物語全体に関わることをいう。物語の始まりに書かれていることが多い。

【た】

🌿 対比 4年

二つのものを比べて、違いをはっきりさせること。

🌿 題名 1年

本や文章に付けられた名前。本の題名は、表紙に書いてある。

🌿 段落 3年

文章を組み立てている、事柄ごとの内容のまとまり。初めを一字下げて表す。

🌿 著作権 6年

文章や音楽、絵などの作品を作った人（著作）がもつ権利のこと。適切に引用し、出典を示す場合を除いて、許可なくその作品を使ったり、変えたりしてはいけないというルールがある。

🌿 出来事 2年

物語の中で起きたこと。特に大きな出来事を「事件」ということがある。

🌿 問い（問いの文） 3年

説明する文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いかけるかたちで表した文のこと。

🌿 登場人物（人物） 2年

物語の中に出てくる人のこと。物語の中で、人のように動いたり、考えたりする生きものや物も、登場人物（人物）という。

【な】

🌿 日本十進分類法 5年

図書資料の分類方法の一つ。アメリカで作られた分類方法をもとに、日本の図書館に合わせて考案された。全ての図書資料を十の種類に分け、それぞれをさらに細かく十ずつに分ける。

【は】

🌿 場面 3年

物語の中にあるいくつかのまとまり。時間や場所、登場人物の行動などでひとまとまりになっていることが多い。

🌿 筆者 2年

文章を書いた人のこと。物語や詩などを作った人である「作者」と区別して、説明する文章を書いた人を筆者ということがある。

【ま】

🌿 見出し 4年

文章のまとまりの初めに置かれる、要点を短くまとめた言葉。

🌿 メモ 2年

聞いたことや考えたことなどを、整理したりまとめるために書き留めること。また、書き留めたものも、メモという。

【や】

🌿 訳者 1年

外国語の文章を、日本語の文章に直すことを「訳す」という。訳した人が「訳者」。

🌿 山場 5年

物語の中で、中心となる人物のものの見方・考え方や人物どうしの関係が大きく変わる場所。

🌿 要旨 5年

筆者が文章で取り上げている、内容や考えの中心となる事柄。文章全体をまとめている段落に表れることが多い。

🌿 要点 4年

物事や人の話などの中心となる、大事な事柄のこと。

🌿 要約 4年

目的や必要に応じて、話や本、文章の内容を短くまとめること。元の文章の組み立てや表現をいかしてまとめるものと、自分の言葉に言い換えてまとめるものがある。

【ら】

🌿 連 3年

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとまり。

【わ】

🌿 話題 2年

話したり話し合ったりするときの、中心となる事柄や材料のこと。

🌿 割り付け 4年

新聞などで、記事や見出し、写真・図などの大きさと、入れる場所を決めること。

初出一覧

三年												二年							一年			学年		
語り手	奥付	司会	会話文・地の文	キャッチコピー	連	索引	句読点	引用	問い（問いの文）	段落	場面	出来事	話題	筆者	質問	組み立て	あらすじ	メモ	登場人物（人物）	訳者	題名	作者	学習用語	
モチモチの木	科学読み物での調べ方	はんで意見をまとめよう	ちいちゃんのかげおくり	ポスターを読もう	わたしと小鳥とすずと／夕日がせなかをおしてくる			引用するとき	言葉で遊ぼう	言葉で遊ぼう	きつつきの商売	お話のさくしやになろう	そうだんにのつてください	どうぶつ園のじゅうい	あつたらしいな、こんなもの	こんなもの、見つけたよ	スイミー	ともだちを　さがそう	ふきのとう	ずうっと、ずっと、大すぎだよ		やくそく	やくそく	教材

六年		五年										四年												学年
推敲	著作権	視点	山場	根拠	主張	事例	構成	要旨	日本十進分類法	人物像	心情	出典	議題	情景	アンケート調査	割り付け	取材	見出し	要約	設定	対比	要点	箇条書き	学習用語
大切にしたい言葉	調べた情報の用い方	帰り道	大造じいさんとガン	あなたは、どう考える	あなたは、どう考える	言葉の意味が分かること	言葉の意味が分かること	見立てる	図書館を使いこなそう	なまえつけてよ	なまえつけてよ	伝統工芸のよさを伝えよう	クラスみんなで決めるには	ごんぎつね	新聞を作ろう	新聞を作ろう	新聞を作ろう	新聞を作ろう	要約するとき	一つの花	思いやりのデザイン	聞き取りメモのくふう	聞き取りメモのくふう	教材

光村図書ウェブサイト：www.mitsumura-tosho.co.jp



内容解説資料

発行者：小泉 茂

発行所：光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話 03-3493-2111（代表）

印刷：協和オフセット印刷株式会社

デザイン：図工室

子どもたちの未来のために、光村図書は、教科書の作成にあたって、「環境」「健康」「子どもの特性」に配慮しています。

- ・原料や製法など、環境に配慮した紙を使用しました。
- ・環境と健康にやさしい、エコマーク認定の植物油インキで印刷しました。
- ・カラーユニバーサルデザインに関して、細心の注意を払いました。
- ・児童の学習負担を軽減するように配慮された書体を使用しました。
- ・特別支援教育の視点から、専門家の入念な校閲を受けました。



光村図書